



# なきごえ



1986

4

大阪市  
天王寺動物園協会

宮嶋康彦



すっかりカバに魅入られてしまった。

と言っても付き合いはたかだか2年。しかも野生のカバはみたことがない。2年間おつきあしたカバはすべて動物園のカバだ。

短くもあり長くもある。というのは動物

園に通った3年間のべ百日程度のうちにカバの交尾・出産・死・解剖・親子わかれなど動物園で起こる事柄のほとんどを体験した。なかでも1年目に10日間、ある私設動物園で飼育体験をしたことがカバにのめりこむキッカケのひとつにもなっているようだ。10日間のうち3日はカバ舎に寝泊まりしてのめりこむ“キッカケ”づくりをさせてもらった。最早そのころになるとあの巨大な肉塊を可愛いくて仕方がないと思うようになっていた。私のような動物園外者にとって、カバに付きあった年を長短というより、親密になるに十分な時間であった、というのが適当かも知れない。

ただ残念なことに巨大な肉の塊にまつわる話に明かるい話題の少ないこと。当初は滑稽でユーモラスな姿態のように話はおかしみにあふれているのだろうと勝手に期待した。ところが、である。

〈残念なこと〉を列挙するわけにもいかないが、あるサファリパークのカバ。10歳ほどの雌カバのことばかりは〈残念〉を越えて心中は穏やかでは済まなかった。そのカバは5年もの間、暗く狭い小屋にとじ込められていた。どのくらい狭いかといえば、カバが部屋の中で東西南北を向くとする。すると二

歩以上歩けば壁か鉄柱にぶつかってしまう。皮膚はガサガサにヒビ割れて、うつろな表情で置かれた立場に耐えていた。

「特に冬はヒフが荒れてしまいますのでサラダオイルを水テッポウのようにしてかけてやっています」と、園長が言う。これ以上この雌カバの悲惨を語るまでもないだろう。そこで園長に、そのカバをなんとか日の当たる場所に出すことができないものか、とたのんだ。頼んだ一カ月後の夜、自宅に電話がかかってきた。

「例のカバよそのサファリパークに出すことになりました」

と。ひそかに「あかり」と名付けていた薄幸のカバがようやく〈飼育・展示・公開〉されることをよこんだ。同時に肩の荷をおろしたような気にもなった。その荷とは“うしろめたさ”であったように思う。少々オーバーな言い草だが「あかり」を不幸にうっちゃっていた人間の一人として、うしろめたさを感じていたのだ。

とはいえ、私自身にしても過去にはずいぶん動物をいじめていた。小学生の頃、シェパード犬に脇腹をこっぴどくかまれて以来、犬をカタキのように思っていた。犬を見れば石を投げるか逃げるかしていた。今でも犬が近づけばアスファルト上にあるはずのない石を探そうとするぐらいだ。猫もいじめたし魚も鳥もワナにはめた。いくなれば野生動物に対しては凶状もちなのだ。

思えば動物を愛したことの少ないことに気づかされる。前科の悔いばかりが指を折らせる。失敗をしなければ愛にむかえないことを悲しいと思う。この3年間、カバに付き合っ愛らしきを感じているが、それにしても愛しきれないだろうと、もひとつ悲しい。(写真家)

なきごえ4月号もくじ

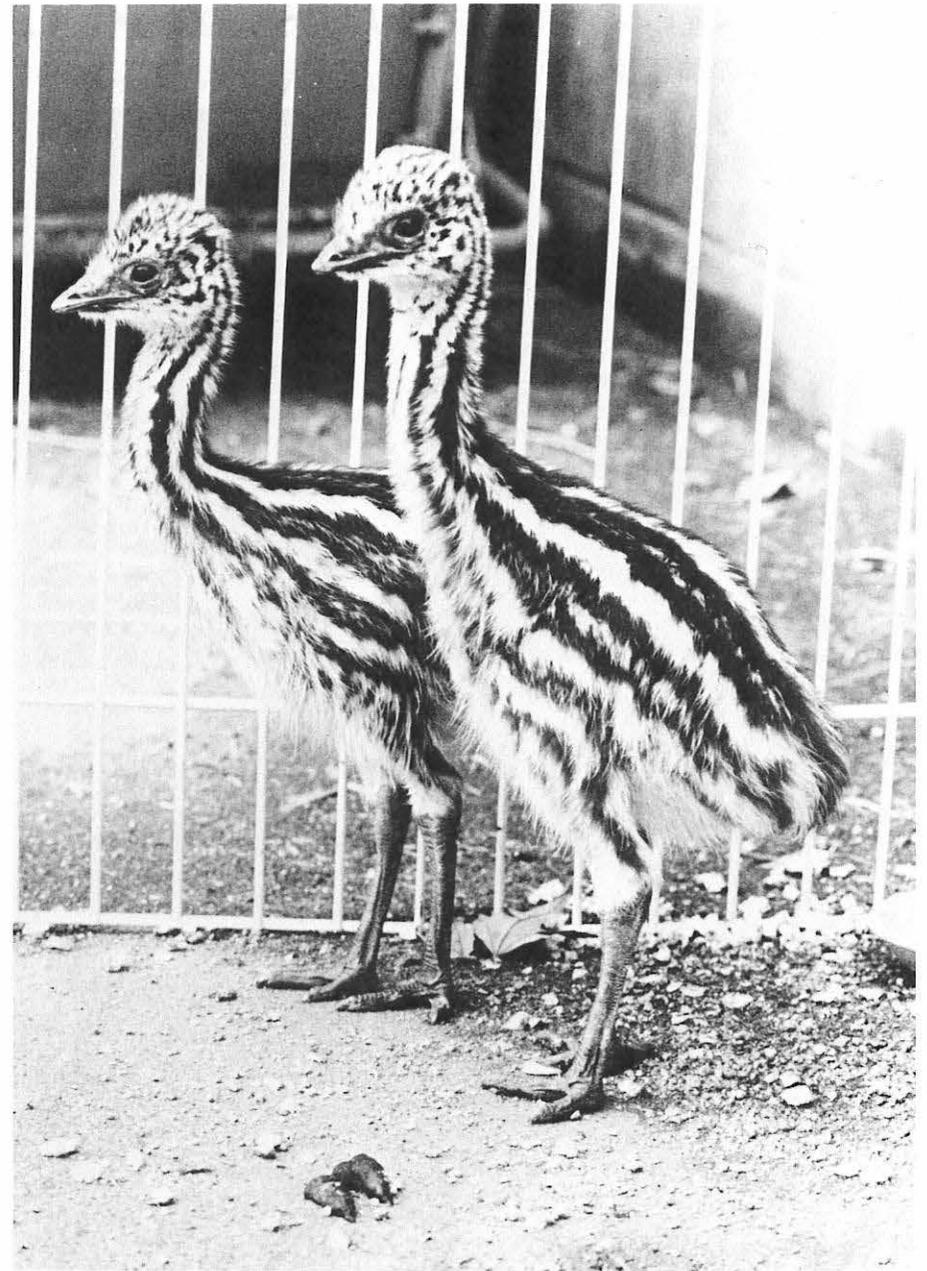
動物と私	2
“私はだれ?”	3
動物園グラフ・動物園日記	4-5
天王寺のどうぶつたち ④	6-7
中国の動物園・博物館を訪ねて	8-9
ケンちゃんの好きやねん動物園	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“アカヤマドリ (*Syrmaticus s.soemmerringii*)

ヤマドリは日本にだけ住んでいるキジの仲間です。住む地方により五亜種に分かれています。このアカヤマドリは九州の中北部に分布しています。

体はニホンキジよりも少し大きく、引きずる程の長い尾が印象的です。(撮影：山下 奉之)



“私はだれでしょう?”

2月23日(右)と26日(左)にエミユウのヒナがフ化しました。昨年12月8日以来産卵がみられ、フ卵器で暖ためていたものです。エミユウのフ化は当園では昭和57年以来4年振りのことです。(昭和61年3月15日撮影)

(撮影：野口 秀高)

# 動物園グラフ

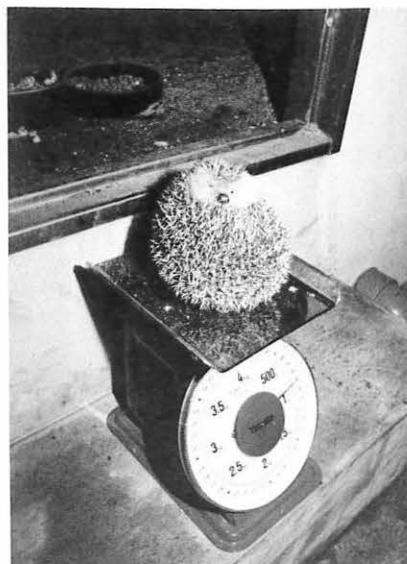
## “ちょっと拝見！ 夜行性動物の体重測定”

夜行性動物舎では毎月1回、健康状態チェックのため、体重測定をしています。今回はその様子をカメラにおさめてみました。

(撮影：森本 委利)



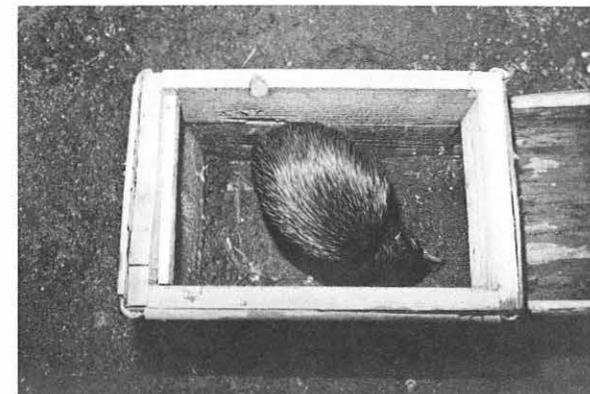
ハリネズミ：丸まっているうちに計ります。



キーウイ①：人工巢の中のキーウイを捕えるところ。



キーウイ②：人工巢のいちばん奥にいれば、上のフタが開くので捕えるのは容易



↑ハリモグラ①  
まず、土の中にもぐっているハリモグラをスコップを用いて掘り出します。

→ハリモグラ②  
掘り出したハリモグラの後足を手早く捕まえて、測定用の箱に入れ計測です。



ココノオビアルマジロ



キーウイ④：最後は、特別製のキーウイ体重測定箱に入れられて、ハカリで体重測定。



キーウイ③：飼育担当の大川係員に抱かれて健康状態のチェックをうけるオスの“ジュン”。

## 2・3月の動物園日記

- 2 / 11. エトに因むおもちゃ展が終了しました。
- 2 / 12. 当園の動物園教育委員会が開かれました。アシカ舎工事のため、アシカ舎にいるすべてのカリフォルニアアシカ(9頭)とミナミアメリカオットセイ(1頭)をとりのり展示プールへ移動させました。カラカラが交尾しました。
- 2 / 13. 本年2頭目のヒツジの子が生まれました。
- 2 / 14. 一時は危険な状態にあったジャガーのオスとメスは、治療により、しだいに元気を取り戻しつつあります。

- 2 / 15. 1月28日産卵のワシミミズクの卵を、親が抱かないため検査してみたところ、無精卵であることがわかり、取り上げることにしました。
- 2 / 16. ワシミミズクが産卵しました。シマウマ、キジ類の定期駆虫を行ないました。第10回動物のお話とスライドの会「ゾウのお話」を開催しました。
- 2 / 17. 水禽放養舎の巣材上げが行なわれました。タンチョウが交尾しました。
- 2 / 18. 2月3日に産卵が確認されたコクチョウの卵を親が抱卵しないため、取り上げ、電気ふ

卵器にてふ卵を開始しました。

- 2 / 19. 1月25日より継続して注射していたジャガー一番は、回復良好のため注射をとりやめました。
- 2 / 20. ヨザルが1頭生まれました。
- 2 / 23. エミューが1羽人工ふ化しました。右翼を骨折したユリカモメと釣針を誤ってのみこんだウミネコを保護しました。
- 2 / 24. 昨日保護したウミネコの釣針摘出手術を行ないました。4日前生まれたヨザルの子が地面に落ちて死亡しました。
- 2 / 25. ハリモグラのオス“トマ”が換毛中です。

- 2 / 26. クロサイのメス“サッチャン”が寝室内に入った時、すぐにすわりこみました。これは皮フにできた吹出物との関係が考えられ、さっそく治療に入りました。エミューが2羽、人工ふ化しました。
- 2 / 27. 近畿ブロック動物園技術者研究会がみさき公園で開催され、当園からは2名参加し発表しました。
- 3 / 2. ボランティアの総会が開かれました。
- 3 / 4. 動物交換で来園したメスのスプリングボックを、初めてカモシカ園に放飼しました。
- 3 / 5. 猛獣脱出捕獲訓練を実施しました。

タスマニアデビル (上)



エサを取り合う2頭のタスマニアデビル

§ はじめに

“生肉を好む”これがタスマニアデビルの属名“サルコピルス”の意味です。“タスマニアの悪魔”とか“生肉を好む”とか、とかく物騒な名前を持つタスマニアデビルですが、その姿は頭でっかちの不恰好なもの

で、歩き方もヨタヨタしていて、とても愛嬌のある面白い動物です。見ているお客さんから思わず「カワイー!!」という歓声があがるこの珍妙な動物について、



頭でっかちの可愛い姿をしています

今月はお話したいと思います。

§ 追いやられたタスマニアデビル

タスマニアデビルは名前の通りオーストラリアの

南東に浮ぶタスマニア島にだけ生息する動物です。有袋目、フクロネコ科に属し、フクロネコ科では最大の動物です。かつては15~30kgの体重を持つフクロオオカミが最大と考えられていましたが、フクロオオカミは現在絶滅したと思われ、体重8~10kgのタスマニアデビルが科内の最大のものとなりました。逆に最小のものはフクロヂネズミの仲間で、オーストラリア大陸の中央部から北西部に住むものでは体重が2gしかありません。これは全哺乳類中でも最



大きく開けた口はやはり肉食獣のもので

小のものひとつです。

タスマニアデビルはかつてはオーストラリア大陸にも広く生息していたらしく、化石も見られますし

ヴィクトリア州西部では約600年前のものと思われる化石しかけた骨も発見されています。

オーストラリア大陸のタスマニアデビルが減んだ原因はディンゴによると考えられます。ディンゴはニューギニアや東南アジアが原産の犬をオーストラリア原住民のアボリジニ人がオーストラリア大陸に持ち込み、そのうち逃げ出したものがまた野生化したものです。それは3000年前のこととも8000年前のこととも言われています。

名前こそいかめしいタスマニアデビルですが、先程申し上げたように走るのには得意ではないようで、せいぜい時速12~13kmのスピードしか出せません。ですから、肉食ではあるものの獲物を追いかけ、襲って食べる、というのではなく待ち伏せて捕えるか、あるいは、既に死んでいる動物を食べるのが彼らの食物獲得の方法です。つまり、優れたハンターとは言いがたいのがタスマニアデビルです。

ディンゴはその点イヌの仲間の特色として群を作り、組織的に上手に狩をする優れたハンターですからタスマニアデビルはディンゴとの食物獲得競争に敗れ、オーストラリア大陸では滅びたのです。幸いなことにディンゴが渡れなかったタスマニア島では生き残れたのですが、まだまだタスマニアデビルにとっての迫害は終わったわけではありませんでした。

§ 肉食有袋類への迫害

トカゲやヘビなどの爬虫類、カエルなどの両生類、昆虫、ザリガニ、カニ、ホヤ、魚、小哺乳類、それ



有袋類では珍しく、水も平気です

にカンガルーや小型のワラビー、鳥。これらはタスマニアデビルのメニューに上る動物です。これらは死んだものでも生きているものでもタスマニアデビルにとっては重要な食料です。そしてタスマニア島にヨーロッパ人が入植してからはこの人達が飼育するニワトリ、ヤギ、ヒツジなどもタスマニアデビル

のメニューに上りました。しかし、何度も申しましたようにタスマニアデビルは優れたハンターではありませんから、元気に走り回るヒツジを襲って食べることはまず不可能です。ですから、弱ったものや死んだものしか食べられないと考えられます。しかし、ヒツジの死体を食べているタスマニアデビルの姿を見たヨーロッパ人達はタスマニアデビルがヒツジを襲って殺したものと勘違いしてしまっただけです。そのためタスマニアデビルの抹殺作戦が行われました。100年以上に渡ってワナや毒エサで狩りたてた結果、タスマニアデビルは絶滅寸前にまで追い込まれました。

タスマニアデビルと同じフクロネコ科に属すフクロオオカミも家畜の敵として狩られました。その結果、昭和8年に捕えられた個体が昭和11年に死亡した後、生きているフクロオオカミが見られたという確かな情報は無くなり、今日では絶滅したと考えられています。

この頃、やっと入植者達は自分達の仕出かした大きな過ちに気が付いたのです。そして昭和16年6月、



国立公園野生生物局のシンボルマーク

保護法が成立しました。この法律によって守られたタスマニアデビルは次第にその数を増やし、現在は絶滅の危機は去ったと考えられます。そこでタスマニア州政府の国立公園野生生物局はそのシンボルマークにタスマニアデビルを用いました。しかし、もうあと20年程早くこの法律が制定されていたら、フクロオオカミも守られて生き残り、タスマニア州のシンボルになると同時にオオカミそっくりの姿をしながらおなかの袋で子供を育てるという奇妙な生態を我々に見せてくれたのに、と大変残念な思いがします。

(つづく)

(長瀬 健二郎:飼育課 獣医師)

# 中国の動物園・博物館を訪ねて

## § はじめに

昨年9月26日から10月1日まで日本動物園教育研究会の主催する中国動物園視察旅行(参加者19名)に参加しました。スケジュールはかなりハードでしたが天津・北京・上海の動物園・自然博物館を訪れました。

## § 天津動物園

9月27日。午前中天津動物園を見学しました。天津動物園の歴史はまだ浅く、開園したのは1980年で、飼育動物数は哺乳類65種140頭、鳥類134種1156羽です。園内総面積は50haで、従業員446人(飼育隊・緑化隊・営繕隊)。園内には動物舎だけでなく、果樹園・野菜畑もあり、動物園自体が農園の一部に組み込まれているみたいでとてもびっくりしました。

私は李園長の案内で園内見学させていただき、飼料室、猛獣舎、クマ舎、パンダ舎、ゾウ舎など見てまわりました。飼料でびっくりしたのは、骨粉で作った餌で、サルや小獣、時には草食獣にも与えるそうです。少し口にしてみると、大阪名物のアワオコシを水でふやかしたような味がしました。野菜や果物、干草などは園内で収穫されたものや外部から購入したものを使うそうです。パンダ舎で主管飼育係員の魏金林さん(神戸市で開催されたポートピアの時、来日)を紹介していただき獣舎内や、餌(ねり餌を団子にしたようなもの・竹)を見せていただきました。パンダは中国でも大変人気があると聞いていましたが、意外に入園客が少なかったと思います。

園内の説明板も動物の行動や表情の説明などがあって、面白く思いましたが、ネームプレートには中国名と学名だけが表示してあり、英名がなく、ちょっとわかりにくいところがありました。李園長の話しによると、表示板も新しく作りなおしたり、展示動物も増やしていくそうです。園内の食堂で、天津市園林管理局長王業さんと園長さん、獣医さんをお呼びして昼食をとった後、天津自然博物館へ向かいました。

## § 天津自然博物館

天津自然博物館は1914年創設の北緯博物院が前身で、藏品総数38万点、研究技術員60名を誇り、私は見学しませんでした。映像ホールもあるそうです。女性係員の説明で植物展示室、古生物展示室、動物展示室を見てまわりました。古生物展示室では、マンモスや恐竜の卵や骨格化石を展示してありましたが、ごく普通に展示してあるだけで、そんなに興味をひきませんでした。動物展示室は原生動物、昆虫や魚類、両生ハ虫類、哺乳類について展示してあり、中でも金絲猴(イボハナザル)とトラのジオラマが食性や生活などをリアルに表現してあり、おもしろく感じました。しかし、剥製の顔や動物の体格など、細かな部分があまりに簡単に作られており、ゾウ、キリンの剥製も同様だったので少しがっかりしました。

展示室を見学後、標本作製室を見せていただきました。ここでは、鳥類、魚類の剥製作りが中心で、日本の剥製技術の坂本式が生かされていると説明され、とてもびっくりしました。標本作製室の物置らしき所に白と黒のどこかで見たような毛皮が石膏

の下敷きにしてありました。よく見ると、なんとパンダの毛皮でした。ノきつと剥製にするつもりだったんでしょうがあまりにも簡単に放置してあったため声も出ませんでした。しかし、それを見ているとなんとなく「中国だな～」と感じました。(けっして日本では、考えられないことです)

## § 北京動物園



樹木を刈り込んで造ったパンダ

9月28日、天津よりノンストップ特急で北京へ。北京では、午前中北京動物園を訪れ、王徳利さんと園副主任の史森明さんに迎えられ、応接室で説明していただきました。北京動物園の前身は、1908年公開の万牲園で解放前は猿12匹、鳥4羽しかいなかったようですが、現在600種4000点となり、従業員は200人、内40人が動物の専門家です。他に900人の農園畑などを含む公園管理人がいるそうです。また入園者は年平均1000万人だそうです。



繁殖動物の説明

園内は、天津動物園に比べるとさすがに入園者の多さが目につきました。それに、繁殖動物や外国産、国内特有動物の生態を絵を含めて詳しく書かれた説明板がありました。また、鳥舎では小鳥、オウムなどの説明札が陶器タイルでできており、絵も鮮やかで美しく、鳥を見るのを忘れ、タイルばかり見てしまいました。動物舎も見学しましたが、キリンは繁殖しており頭数は覚えていませんがかなりいたように思います。シカ舎では、中国特有の四不象やクチジロジカを見る事もできましたし、野生のフタコブラクダ、ターキン、野生のヤクなど貴重な動物を見る事ができ、感激のしどおしでした。猿舎ではさすがに金



タイル製の説明板

猿舎ではさすがに金絲猴やシロガシラトントンなどに人気が集まっているようでしたが、それ以上にゴリラ、オランウータンなどの類人猿に人気があり、かなりの人ばかりでしたので、ちょっとびっくりしました。その他に吹抜けのニシキヘビ展示室など、とても立派なハ虫類舎があり、展示数も豊富でした。看板動物の割に人気の少なかったパンダ舎、ここではパンダに餌を与えると

5元の罰金を取られる、ということでした。園内が広く、時間の関係もあり、全部見るこ



クチジロジカ



野生のフタコブラクダ

とができなかった事と、雲南ゾウを見残したことがとても残念でした。北京自然博物館へ移動し自由見学した後、副館長の周国興さんより説明していただきました。博物館は1958年に設立され、古生物、現生動物、現生植物、人類の四分野の展示室があり、年間入場数が50~60万人だそうです。この日も多くの子供達が見学に来ていました。

館内見学中、気がついた事は、天津でもそうだった様に、剥製があまりにもおおざっぱで、ちょっと迫りに欠けていることでした。それに、展示物に窓越しの太陽の光が当たり、少し変色したものがありました。貴重な展示物が豊富に展示してあるのにとってももったいないと思いました。周さんのお話しでは、今ちょうど新旧切替えの時期で剥製も展示方法も変えていくそうです。また、外国への展示会も積極的に参加していくそうです。ちょっと気になる所もありましたが、北京原人(シナントロプス・ペキネンシス)などの貴重な資料を見る事ができ、よかったです。



北京自然博物館

9月29日、万里長城と故宮を訪れました。これだけの建造を行わせた皇帝の権力と人の力のすごさを改めて感じました。

## § 上海自然博物館

9月30日、飛行機で上海へ。午前中上海自然博物館を訪れました。開館は1960年で元イギリスの会社が使用していた建物を利用してあり職員は260名(動物専門家100名)。入場者は1日平均1000人だそうです。

1階は古生物、人猿展示(1階改装中で見学できませんでしたが、そのかわり1階で四不象展を行っていました。)2階は無脊椎動物・魚類・両生類、3階はハ虫類・鳥類・哺乳類について展示してありま

した。展示物も見やすく、ボタン装置の展示物や説明用のビデオが設置してあり、わりと満足しました。

人類史特別展示室では、金髪少女のミイラと他のミイラ4体、それに、発掘作業の写真を展示してありました。日本では想像もつかないくらい近くでミイラを観察することができ、ミイラが浮き出るような照明がしてあり、何も言えないくらい感動しました。

## § 上海動物園

午後、上海動物園を訪れました。まず動物園の応接室で概要を説明していただきました。1949年に設立され、前身はイギリス人の作ったゴルフ場だったそうです。動物は390種2000点、従業員は600人、総面積70haだそうです。園内は国慶節前日のためか、家族連れがよく目立ちました。

張園長と邱獣医の案内で園内見学させていただきましたが、私達の人数が多い事や時間がない為、十分に園内を見学できず、パンダ舎・鳥舎・猿山・トラ舎・ゾウ舎のみ見学しました。私はゾウが繁殖していたのを知っていましたし、北京で見るこのできなかった雲南ゾウを見る事ができるのでわくわくしました。大きなゾウ舎は予備室をいれて4部屋あり、また、そのゾウの大きいこと。メスは中国で、オスはパキスタンで捕獲したそうです。繁殖の事や馴致について聞きたかったのですが、くわしく聞く事ができませんでした(残念)。

園内見学後、動物園より車で10分くらいの所にある繁殖センターを案内していただきました。センター内には金絲猴の餌となるネズミモチが所狭しと植えてあり、金絲猴のケージが数個ありました。一度に多くの人々が来た為、金絲猴達はとても興奮して、よく鳴いていました。金絲猴の頭数は、よくおぼえておりませんが、成獣のペアと若い個体が数頭いたと思います。みんな金絲猴の鳴き声を聞いたり、金色の毛をなびかせて動きまわる姿を見て、とても感激して



繁殖センターの金絲猴(イボハナザル)

センターでは金絲猴の他にヨウスコウワニの繁殖にも力を入れており、繁殖にも成功しているそうです。こういうふうに動物園とは全く別に、動物を繁殖させる目的で飼育していることはすばらしいことだし、とてもうらやましく思いました。

今回はスケジュールの関係で見学できなかった所があり、ちょっと心残りでしたが、各動物園や博物館で貴重な動物や資料を見る事ができ、貴重な経験をさせていただいたと思っております。この旅行を主催、企画された方々、そして私達を歓迎して下さった中国各地の園館の方々に感謝しております。

(飼育課:小谷信浩)

# ケンちゃんの好きやねん動物園

マンガ松葉 健

3月5日動物園の中で突然非常サイレンがなりました。

ケンちゃん きょうは猛獣が脱出したときの捕獲訓練やからに西にせんもええけどよく見とくといひよ

トラがオリから逃げたって!!

しっかりや、マこいよ

トラの代役をつとめるぬいぐるみのトラはとて可愛くて動物園の園児たちにもモテモテ

この訓練毎年やるんだヨ

どういばトラ舎の前でぬいぐるみのトラがテレビなどの取材をうけてました

では脱出します

その間にも東門の方へ逃げ入園者をおぼろ。負傷者がでたので救護班が出動した急手当のあと救急車に4名送る。

トラが脱走したので捕らえるための作戦を考えた捕獲隊や警備隊、避難誘導班に指令をだします。出動をのぞく全職員が集合です。(75名が参加)

ホントやたら、のんきに見てらんやろな

トラはあちこちへ逃げまわり捕獲班にも負傷者がでた... 麻醉銃班が合流し、息いつめてゆく。

立網の設置

捕獲に協力するいろいろの道具

軽ライト

トラ舎

資材をはこぶ

鉄棒

タテ

どういば最後は麻醉がきいてご用。トラはオリに入れられ捕獲作戦大成功!!

訓練は30分程で終わりました。オリから出たきょうのヒーローは紅顔の早川です。24歳のトラとしまして「タイガー-早川」と先輩からヒヤカされてました。

はじめ見たけど楽しかったでも動物園の人はシケンした

## 動物園ニュース

### § エミューの人工ふ化

エミューのヒナが3羽ふ化しました。12月の終わりと1月の始めにふ卵器に入れた3個のエミューの卵はいずれも有精卵で、2月23日に1羽、26日に2羽ふ化しました。ふ化日数は55~59日でした。残念ながら1羽は、3月1日に死亡しましたが、残る2羽は



すくすく育っています。当園では4年ぶりのふ化です。大事に育てていきたいと思っています。

一方、親鳥の方は、今期は3卵しか産卵しなかったうえに、自然抱卵する様子も見られなかったのですが、2月終わりになつてから、抱卵本能がよみがえったのか、オスが飼育舎にころがっていた石を抱き始めました。卵とは似ても似つかぬ四角い石なのですが、けなげにも毎日抱き続けています。

### § 脱出猛獣捕獲訓練

3月5日、トラ舎から1頭のトラが逃げ出したという想定のもと、動物園の全職員が参加して脱出猛獣捕獲訓練が行なわれました。午前10時に、トラ舎から逃げ出したぬいぐるみのトラは、園内を転々と逃亡、職員は捕獲、麻醉銃、広報記録、救護、連絡、



避難誘導、資材運搬、入園停止などの業務を分担し、本部とトランシーバーで連絡をとりながら約30分でトラを捕獲し、訓練は終了しました。実際にはあつてはならないことですが、万一のことを考えれば必要な訓練といえるでしょう。

### § トカラヤギ、ヒツジの出産続く

3月号で、トカラヤギとヒツジの赤ちゃんが次々生まれたことをお知らせしましたが、その後も出産が続き、ヒツジが2月20日にメス、21日にオスが生まれ

現在の飼育動物数 (1986年2月28日現在)

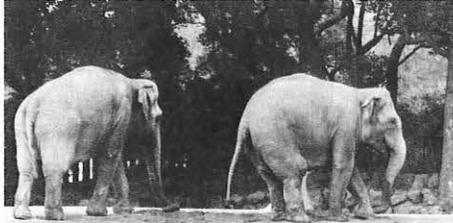
哺乳類	13目	111種	410点
鳥類	18目	175種	581点
爬虫類	3目	32種	63点
計	34目	318種	1,054点

ました。トカラヤギのほうは3月13日にオス、15日にメスが生まれました。今年の出産はヒツジもトカラヤギもそれぞれ5頭となり、例年になく大にぎわいです。

### § 冬期補修工事完成近づく

今年の冬も、園内各所で動物舎の補修工事が行なわれていますが、春の行楽シーズンを前に急ピッチで工事が進んでいます。

ゾウ舎では古くなったコンクリートの土間の半分を補修すると同時に、土に触れさせるため、新しく直径6mの円形の砂場を作りました。3月16日には18日ぶりに3頭のゾウを運動場に出したところ初めは少々警戒して



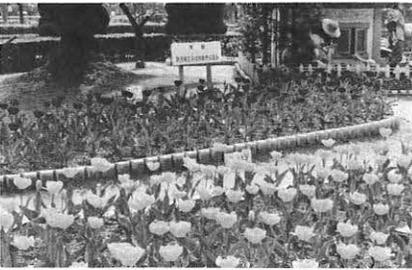
いましたがすぐに慣れ、土の感触を楽しんでいます。

その他、クマ舎の擬岩工事、ホッキョクグマ舎および、アシカ舎のプールの塗装も行なわれています。

### § 園内花だより “チューリップの開花”

昨年10月から花壇に植え込んだチューリップは、4月上旬から中旬にかけて、次々開花するでしょう。

新潟県と富山県から寄付された赤い花をつけるゼネラルアイゼンハワーや黄色のマンモスイエローをはじめとする16品種4000球のチューリップをご覧いただけます。



### ● お知らせ

「楽しい動物のお話とスライドの会」

- 4月20日 楽しいキジ類、飼育と繁殖
- 5月18日 野鳥を呼ぼう楽しい庭作り
- 6月15日 チンパンジー “リッキー” の一年
- 7月13日 大阪の野生動物

いずれも午後1時より  
場所：北園レクチャールーム  
定員：先着 100名

### \* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎月第3日曜日です。6月までの休園日は下記のとおりです。

4月21日(月)、5月19日(月)、6月16日(月)

開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

ゆとり満喫、信頼のカード。



ショッピングから海外旅行まで、  
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。  
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード (キップス) **KIPS**

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。  
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの  
ご利用にはいろいろな特典が。

**近鉄百貨店** お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ

●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京都店1階  
(京都ファミリー)

世界初の最高感度  
(カラープリント用フィルム)  
**1600 新登場!**



**かろうの大林**  
桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031

**フジカラー HR 1600**  
ISO1600/33° 135-24枚撮

ひかりのくに ●オールカラー

監修・阪口浩平  
指導・宮武頼夫

**むし**  
くらしとかいかた

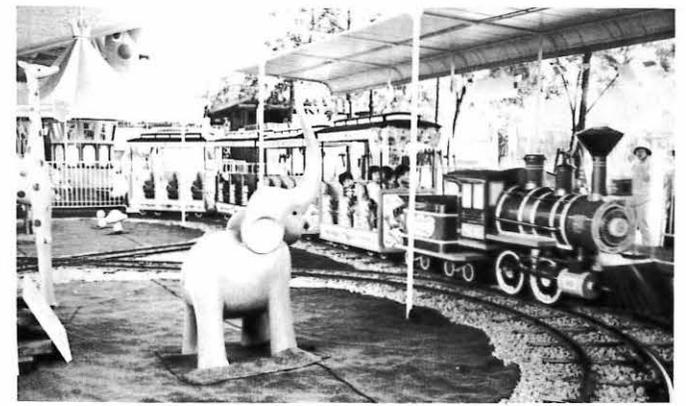
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きつとすばらしいことに出会えるはずだ。

85・変形 580円  
84ページ

ひかりのくに株式会社  
〒543-8601 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりものが待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

ビデオ  
**動物園へ行こう**  
の無料貸出をします。



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」  
①巻・20分 (10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

**動物観察の手引に!**  
**天王寺動物園**  
**ガイドブック**  
のご購読をおすすめします。  
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会  
〒543/大阪市天王寺区茶白山町6-74 ☎(06)771-0201

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

# 猫の歴史と奇話

(定価・2600円)  
A5判・260頁  
口絵挿画・113図

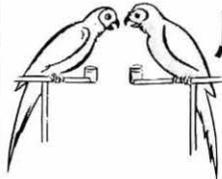
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本  
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

## 主な目次

- |                                     |                                       |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史<br>欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説<br>老猫化けてさまざまな怪異をなす           |
| 第三章 猫の報恩談<br>蛇を咬んだり、金を運んだりする        | 第四章 野性猫の存在<br>裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡米など |
| 第五章 猫の奇話(上)<br>長命、多産、三毛猫などの形態の奇話    | 第六章 猫の奇話(中)<br>長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)<br>マタビを媚薬とする奇妙な習性など     | 第八章 益獣としての猫<br>あらゆる角度から猫の生態と効用を探究     |

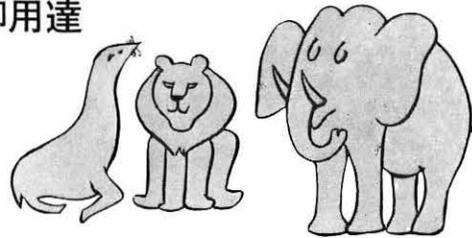
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800  
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での

## お食事、ご休憩は

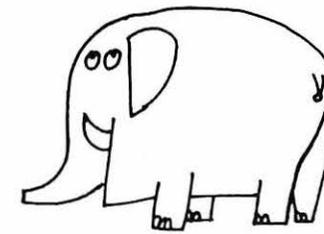
大阪市天王寺動物園内

## 中央売店

☎ (06) 771-0973



## 天王寺動物園内



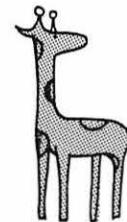
## 南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

## 園内でのお写真は...

## 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して  
おりますので説明  
に伺いました際は、  
よろしくお願い致し  
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト  
の名コンビ

自然の  
おいしさ



# 雪印ヨーグルト

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

ペットを飼っている人にも飼えない人にも、この1冊

## ペット大図鑑

好評発売中

あらゆるペットの飼い方、殖やし方、  
治療法がひと目でわかります。

1部/犬・猫など 2部/リス・アライグマなどの小動物  
3部/金魚・熱帯魚・海辺の生きもの 4部/洋鳥  
和鳥・鳩など 5部/は虫類や昆虫など、めず  
らしい生きもの 巻末/ペットの便利情報ガイド

総監修/中川道朗 (大阪市天王寺動物園協会専務理事)

監修/浦東信夫/榊原安昭/内田 至

石原重厚 編修協力/宮武頼夫

特別  
価格 **2,950円**  
(定価3,300円) ※送料無料

同封の専用紙または郵便局の振替用紙にて  
お申込みください。振替口座 / 大阪5-98163

(株)グリーンアド・コミュニティ

〒550 大阪市西区西本町3-1-46 TEL. (06) 531-0415



サイズ **AB判** (25.7×21cm)

カラー **160** ページ・全 **400** ページ

なきごえ 昭和61年4月10日発行 (毎月1回10日発行) 第22巻 第4号 (通巻248号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員 (土井良彦/伊東重朗/小出雅三/樽本 勲/中川哲男/前田豊彦/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭/森本委利)  
(大野尊信/山下奉之/農本武志/野口秀高/早川 篤/荻野幸司/堀 弘/大川光雄)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823